

# ポルトガル月報

2016年10月号

(本月報は報道などの公開情報を当館が取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

## 【主要ニュース】

【内政・外交】★グテーレス元首相、次期国連事務総長に就任へ／★コスタ首相、中国を公式訪問

【経済】★2017年度予算案の議会及び欧州委員会提出

【社会・その他】★ポルトガルの社会指標—OECD統計

## 内政・外交

### ●コスタ首相、スウェーデンの首相と会談

10月3日、コスタ首相はスウェーデンの首都ストックホルムで同国のロヴェーン首相と会談し、今年375年の節目を迎えた両国の外交関係やEUが抱える諸問題について協議した。

コスタ首相は共同記者会見で、特に難民問題に対するスウェーデンの積極的な姿勢を「素晴らしい事例」と評価した。その上でEU加盟国は難民のさらなる受入れに向けて努力すべきとの認識を両国で確認したと述べた。前日2日にハンガリーで行われたEU加盟国の難民分担受入れ計画の「賛成」「反対」を問う国民投票で「反対」が約98%に上ったものの、有効投票が50%に届かず不成立となったことについては「予見していたような結果とならずポジティブであった。難民問題に対する答えは国境を閉鎖することではない」と話した。

積極的な難民受入れを表明しているポルトガル政府は、9月23日、EUの難民分担計画に基づきイタリアやギリシャ、トルコからポルトガルへの再定住を受け入れた難民に対して直接配布する特別支援キットを発表した。同キットには、ポルトガルの基礎的な生活情報やポルトガル語の学習セットなどを内包。ポルトガルに関する紹介ビデオはポルトガル語、英語、仏語、アラビア語、ティグリニャ語(エリトリア)の4言語で作成した。



【写真上】コスタ首相(左)とロヴェーン首相(3日、政府HPより転載)



【写真下】受入れ難民用の支援キットを手を持つカプリタ首相補佐(中央、9月23日、政府HPより転載)

### ★グテーレス元首相、次期国連事務総長に就任へ

10月5日、国連安全保障理事会は次期事務総長候補を絞り込む6回目の模擬投票を行った。グテーレス元首相は過去5回の投票同様に最多の支持を集め、拒否権を持つ常任理事国5か国を含めて不支持票もなかった。同日、安保理各国の国連代表がそろって記者会見を開き、候補をグテーレス元首相に絞り込んだと明らかにした。

これを受けてソウザ大統領は「大きな喜びと感動。国連、ポルトガルにとって最良の知らせ」と声明を出した。コスタ首相は「これは我々の偉大なる外交努力

の成果。全国民、公的機関、そして現政権に対する支持・不支持を問わずに協力してくれた全ての政治勢力に感謝したい」と喜んだ。サントス・シルヴァ外相は「今回の選出プロセスは透明性が確保されて実に模範的であった。グテーレス元首相は(対話の)橋を築き上げる能力がある。彼は国連全加盟国の声を代表する事務総長になるだろう」と述べた。

国連安保理は6日、グテーレス元首相を唯一の事務総長候補として総会に勧告すると正式に発表した。ポルトガルの主要日刊紙「プブリコ」は同日付社説で、「グテーレス元首相の今後のミッションは決して簡単ではない」と前置きした上で、「彼は国連が担うべき中心的な役割を再構築する上で一つの希望となろう。我々ポルトガル人にとって今回の結果を一言でまとめるならば、それは誇りである」と評価した。6日夕方、グテーレス元首相はリスボン市内で会見を開き、ポルトガル語、英語、仏語及びスペイン語でそれぞれ感謝と抱負を述べた。

国連は13日に総会を開き、グテーレス元首相を次期事務総長に任命する決議案を拍手による満場一致で採択した。任期は2017年1月1日から2021年12月31日の5年間。



【写真】会見するグテーレス元首相(6日、政府HPより転載)

### ●リベイロ外務副大臣、アンゴラを訪問

10月5～7日、リベイロ外務・国際協力担当副大臣はアンゴラを訪問した。首都ルアンダに滞在中、同国の外務、財務、農業、保健、企画・国土開発、電力・水、教育及び高等教育の各省大臣や担当副大臣らを中心に15回以上の個別会合を開いた。

リベイロ副大臣は訪問後「短いながらも密度濃く、2国間の協力関係を強化する上で重要な訪問であった」と総括した。また、グテーレス元首相の次期国連事務

総長選出に関し、国連安保理非常任理事国のアンゴラの積極的な協力があつたと強調した。コスタ首相とサントス・シルヴァ外相も今後数か月以内にアンゴラを訪問する予定。



【写真】アンゴラを訪問したリベイロ外務副大臣(左、ポルトガル政府HPより転載)

### ●リベイロ外務副大臣、マドリッドを訪問

10月10日、リベイロ外務・国際協力担当副大臣は、同月28、29の両日にコロンビアで開催される第25回イベロアメリカサミットに向けてマドリッドで開かれたイベントに出席した。同イベントはイベロアメリカ諸国の持続可能な開発の実現を視野に、加盟国間の新たな協力関係を検討するために開かれた。

リベイロ外務副大臣はマドリッド訪問に合わせ、同国のイバニェス外交長官やグラシア国際協力イベロアメリカ担当長官とも会合し、両国間の課題について協議した。イベロアメリカサミットは欧州及び中南米のスペイン語・ポルトガル語圏諸国22か国(イベロアメリカ諸国)から構成される首脳会合の枠組み。

### ●アソーレス自治州議会選挙、社会党が過半数維持

10月14日、アソーレス自治州議会選挙(前回2008年)が行われ、現与党の社会党(PS)が得票率46.4%(前回比▲2.6%)で30議席(同▲1)を獲得し、1996年から続く議会での単独過半数を維持した。

最大野党の社会民主党(PSD)は得票率30.9%(同▲2.1%)で19議席(同▲1)を獲得した。民衆党(CDS-PP)は4議席(同+1)、左翼連合(BE)は2議席(同+1)で、統一民主連合(CDU)及び民衆王政党(PPM)はそれぞれ1議席を維持した。

同自治州の有権者登録数は22万8179人。得票率は40.84%(同▲7.0%)だった。

### ●ソウザ大統領、スイスを公式訪問

10月16～18日、ソウザ大統領はスイスを公式訪問した。初日の16日夜はジュネーブ市内で現地のポルトガル人コミュニティとの交流に参加した。ス

イスには約30万人のポルトガル人が暮らしており、同国の外国人コミュニティの中ではイタリア、ドイツに次いで3番目に多く、ジュネーブ市に限ればポルトガル人が最も多い。

17日午前、シュナイダー＝アマン大統領に迎えられた後、同市の研究センター「Campus Biotech」を共に視察した。午後には電車でベルン市に移動し、スイス連邦議会の閣僚らを含めて改めてシュナイダー＝アマン大統領による歓迎を受けた後、教育、研究、環境、気候及び欧州問題などについて意見を交わした。18日はベルン市近郊の企業や美術館を訪問した。

ポルトガルの大統領が同国を訪問するのは1999年以来。今訪問にはサントス・シルヴァ外相も同行した。



【写真】ソウザ大統領(左)とシュナイダー＝アマン大統領(ポルトガル大統領府HPより転載)

### ★コスタ首相、中国を公式訪問

10月8～12日、コスタ首相は中国を公式訪問した。カブラル経済大臣とメンデス文化大臣が同行した。

コスタ首相は初日の8日、北京で張徳江・全人代常務委員長に続いて習近平国家主席と会談し、両国間のさらなる経済協力を進めるとの前提に立ち、「ポルトガルは自動車や再生可能エネルギーなどの分野で大きな可能性を秘めている。港灣分野にも新しい展望が開いている。中国は海洋ルート構想の下で大型プロジェクトを進めているが、ポルトガルのシーネス港などは同構想の発展にとって重要な役割を担い得る」などと述べた。

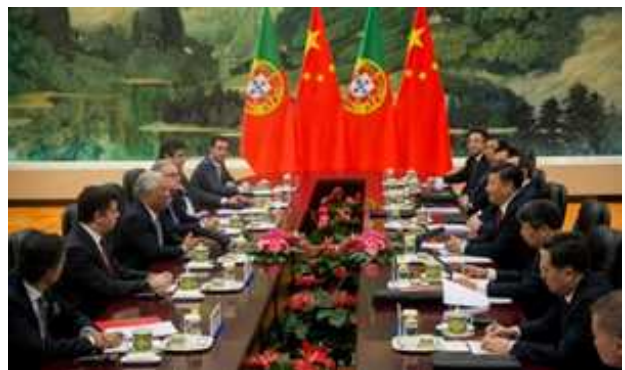
9日には中国企業家との会合の他、李克強総理と会談、経済及び文化に関する8本の協定に署名し、両国の要人往来を一層密にしながら、更なる関係強化を図ることを確認した。続いて10日、コスタ首相は上海市で復星(fosun)や海通(Haitong)などの中国の大手企業幹部と朝食会を開いた後、ポルトガルへの投資をア

ピールする経済フォーラムに出席した。その後、ワイン、オイル、チーズ、チョコレートなどのポルトガル産品を紹介する展示イベントを視察した。

11日はポルトガルの旧植民地であるマカオを訪れ、「第五回中国・ポルトガル語圏諸国経済・貿易協力閣僚会合(マカオフォーラム)」の開会式に出席した。コスタ首相は「ポルトガルは中国と共に相乗効果が期待できるポルトガル語圏諸国での三角協力を進める用意がある。農業や教育、環境、インフラ、代替エネルギー分野でポルトガル、中国、ポルトガル語圏アフリカ諸国、ブラジルが力を合わせることで、一国で行うよりも大きな成果をあげることができる」などと語った。その後、マカオ理工学院のポルトガル語・中国語の自動翻訳研究所の開所式に参加した他、約550人の多国籍生徒が在籍するマカオのポルトガルスクールなどを訪問した。

12日は広東省深セン市で、中国大手通信機器メーカーの華為(Huawei)本社を訪問後、朱小丹・広東省長らと会談した。

ポルトガル政府プレスリリースによると、ポルトガル観光局と海南航空との基本合意に基づき、2017年6月からポルトガル－中国間の直行便が週3－4便就航する予定。政府は本直行便の開設に伴い、より多くの中国人観光客を見込んでいる。同観光局によると、2016年上半年期の対ポルトガル中国人観光客は10万6千人で、前年同期比21.6%増加した。



【写真】8日、習主席(右列中央)と会談するコスタ首相(左列中央:同首相公式ツイッターより転載)

### ●ソウザ大統領、キューバを公式訪問

10月25～27日、ソウザ大統領はキューバのラ

ウル・カストロ国家評議会議長の招待を受け、ポルトガルの大統領として初めて同国を公式訪問した。

ソウザ大統領は26日、フィデル・カストロ前国家評議会議長を表敬し、約1時間対談した。同日、米国の対キューバ経済制裁解除を求める第25回国連決議が採決されたことに祝意を伝えると、同議長はポルトガルの一環した同決議支持に感謝を述べた。

ソウザ大統領はこのほか、ポルトガル投資貿易振興庁(AICEP)主催のポルトガル・キューバ企業フォーラムに参加した他、初めてポルトガル企業が特別ブースを出展した第34回キューバ国際見本市を視察した。同日夕方にはラウル・カストロ国家評議会議長と会談し、革命宮殿で同議長主催の夕食会に出席した。

27日には葉巻工場などを視察後、ハバナ大学で開催された「ポルトガル・ラテンアメリカ」カンファレンスに出席した。その後、現地のポルトガル人やポルトガル語圏諸国出身者と懇談したほか、ポルトガル工芸品の展覧会を視察した。



【写真】 フィデル・カストロ前国家評議会議長(右)と話すソウザ大統領(左、大統領 HP より転載)

#### ●ソウザ大統領ら、イベロアメリカサミットに出席

10月28～29日、ソウザ大統領はキューバ訪問に続いて、「青年、企業家精神及び教育」をテーマにコロンビアのカルタヘナで開催された第25回イベロアメリカサミットにコスタ首相及びサントス・シルヴァ外相と共に出席した。

初日の28日、ソウザ大統領は同サミットに先立ち開催された第11回イベロアメリカ企業家フォーラムに参加し、チリ、コロンビア、メキシコ、ペルーの各大統領及び国際開発銀行の代表者と公開討論を行った。別途、コロンビア、ペルー、グアテマラの各大統領と個別会談した。夜はイベロアメリカサミットの公式夕食会に出席した。

29日のサミットで、ソウザ大統領はコロンビア内

戦の和平合意に言及しつつ「ここカルタヘナでは平和の精神が感じられる。今サミットもこの精神に沿って進められている。平和とはつまり対話、寛容性、民主主義に基づく人権尊重である」などと発言した。

なお、10月31日～11月1日、ソウザ大統領はブラジルの首都ブラジリアで開催されたポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)のサミットにコスタ首相と共に出席した。併せてブラジルのテメル新大統領とも会談した。



【写真】 サミットで発言するソウザ大統領(大統領府 HP より転載)

### 経済

#### ★2017年度予算案の議会及び欧州委員会提出

10月14日、ポルトガル政府は2017年度予算案を共和国議会に、17日に欧州委員会にそれぞれ提出した。

センターノ財務相は「本予算案の3本の柱は、国民所得の回復、企業の資本増強、金融システムの安定化。2016年度の経済政策による進展をさらに強固にしなが、より公平な社会を実現すべく、公的支出を厳格に管理し、財政安定化及び不正・脱税の撲滅を進め、国民所得の回復につなげる」と述べた。

一方、野党の社会民主党及び民衆党は、本予算案は間接税を中心に多くの増税策が盛り込まれており、マクロ経済シナリオの見直しも必須となる見込みとして、コスタ首相が脱却を掲げる緊縮政策は結局終わらないと批判した。社会民主党のアルブケルケ副党首(元財相)は15日、「本予算案は増税策に大きく依存してい

る。国民貯蓄や投資の呼び込みを遠ざけ、社会的な不公正さも高める」と述べた。

本予算案の主な財政政策は以下の通り。

- ・ 歳入合計 841.5億ユーロ(前年度比4.1%増)
- ・ 歳出合計 871.7億ユーロ(同2.1%増)
- ・ 収支 ▲30.2億ユーロ(同15.2億ユーロ改善)

**【歳入面】**

- ・ 個人所得にかかる特別増税措置の撤廃
- ・ 炭酸飲料に課税
- ・ アルコール飲料税の引上げ
- ・ タバコ税の引上げ
- ・ 高額不動産に対する新税の導入
- ・ 民泊事業の収益にかかる税率引上げ
- ・ 自動車関連税の引上げ
- ・ 弾薬製造者に課税
- ・ 障害者の所得課税軽減
- ・ 個人所得の交通費控除枠の削減
- ・ 一般テレビ視聴料の引上げ
- ・ 企業の特別負担金(PEC:法人税の一種)の引下げ

**【歳出面】**

- ・ 年金の増額調整
- ・ 公務員のクリスマスボーナス支給方式の変更
- ・ 公立の小学1～4年生への教科書無償配布

本予算案のマクロ経済指標見通しは以下の通り。

	2016年	2017年
GDP成長率	1.2%	1.5%
民間消費	2.0%	1.5%
総固定資本形成	▲0.7%	3.1%
輸出	3.1%	4.2%
輸入	3.2%	3.6%
インフレ率	0.8%	1.5%
財政収支※	▲2.4%	▲1.6%
債務残高※	129.7%	128.3%
失業率	11.2%	10.3%

(※対GDP比)

本予算案は個別委員会による修正案審議を経て、1月29日に最終全体採決が行われる予定。

**●DBRS、ポルトガルに対する信用格付を維持**

10月21日、大手格付会社4社のうち唯一ポルトガルに投資適格級を付与しているカナダの格付会社DBRSは、ポルトガルの長期信用格付を「BBB(Low)(投資適格級最下限)」、格付見通しを「安定的」にそれぞれ据え置くと発表した。

DBRSはレポートで「本格付はポルトガルがユーロ加盟国である点及び信用できるマクロ経済政策の立案を支えるEU経済ガバナンスの枠組みを遵守している点を反映している。しかしながら、ポルトガルは依然として公的債務が高水準にあり、潜在成長率も低く、財政圧力が存在し、民間の債務水準も高いなどの重大な課題に直面している」と指摘した。

仮にDBRSの格付が非投資適格級に引き下げられた場合、ポルトガル国債は欧州中央銀行の量的緩和プログラムの資産買入対象から除外される可能性があるため、DBRSの評価は常に注視されている。

**●長期国債の発行**

10月26日、ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は5年物長期国債の入札を実施し、10億ユーロを調達した。落札平均利回りは、1.751%だった。

**社会・その他**

**★ポルトガルの社会指標—OECD統計**

OECDが10月5日に公表した「図表でみる社会2016年版」によると、ポルトガルのニート率(15～29歳で未就労かつ教育・訓練も受けていない若者の割合)は15%で、経済状況が悪化した時期(2008-2013年)の19%から改善した。ポルトガルではニートの70%が両親と同居し、学歴は中学卒業程度が全体の3割を占めている。

その他の社会指標では、合計特殊出生率(15～19歳の間に女性が産む子どもの数の平均値)が最下位の韓国に次ぐ1.23人とOECD平均の1.68人を大きく下回った。他方、2歳以下の子どもを持つ女性の就業率は70%で、OECD平均の53%より高かった。また、生活全般に関する満足度は0～10段階評価の5.5で、OECD平均の6.6を下回った。(了)